

# 夢のつばさプロジェクト 2015年 秋の交流会 学生報告書

【日程】 2015年 10月 18日 (日)

【場所】 仙台市：榴ヶ岡公園、仙台市青葉体育館、仙台市生涯学習支援センター

【参加者】 子ども 17名(小学生 11名、中高生 6名)、学生 26名、大人スタッフ 3名

## ◆2015年秋の交流会について

---

昨年より夢のつばさの年間イベントに加わった「秋の交流会」。木々の梢も色づき始める良き季節に、今年で2回目となる秋の交流会を、宮城県仙台市にて開催できましたことをここにご報告いたします。

春の交流会を含むこれまでの仙台市での交流会のうち、最も多い参加申し込みをいただきまして、スタッフ一同大変嬉しく感じております。夏キャンプに参加してくれた子どもたちとは約2ヶ月ぶりの再会となりまして、みんなそれぞれ、その期間にあった様々なできごとを私たち学生に聞かせてくれました。

また、子どもたちが公園で外遊びを楽しんでいる間に、生涯学習支援センターでは保護者交流会を行いました。キャンプに参加してくれている子どもの保護者の方3名がご参加くださり、夢のつばさに対するお考えや子どもたちの学校やご家庭での様子などをお話ししてくださいました。学生スタッフ2名・社会人スタッフ1名からは、キャンプでの子どもたちの様子やスタッフの思いなどをお話しさせていただきました。

## ◆タイムスケジュール・概要

---

- 10:00 仙台駅集合 \* 1
- 10:20 仙台駅を出発、榴ヶ岡公園へ
- 10:45 榴ヶ岡公園 着
- 午前レクリエーション \* 2
- 12:00 公園でお昼
- 12:45 榴ヶ岡公園を出発、青葉体育館へ
- 13:45 青葉体育館会議室 着
- 午後レクリエーション \* 3
- 15:40 青葉体育館を出発、仙台駅へ
- 16:30 仙台駅にて解散 \* 4

## \* 1 集合

夜行バスや朝早くの新幹線で仙台に到着した学生たちが、午前10時に仙台駅新幹線南乗り換え口にて、子どもたちを待ちます。子どもたちの多くは宮城県内から、そして送迎スタッフに付き添われて、郡山や盛岡から新幹線に乗ってきてくれた子たちもいました。子どもたちとの再会の瞬間は、私たち学生も、思わずテンションが上がってしまいます。「おはようー!」「久しぶりー!」などと声をかけると、元気に返してくれたり、面白い返事をしたり、嬉しそうにはにかんだりするそれぞれの様子から、子どもたちも私たち学生に会えることを楽しみにしていたのだなあと感じることができました。到着した保護者の方々に「行ってきます」を言って、榴ヶ岡公園へと出発しました。

## \* 2 榴ヶ岡公園にて

最初に、公園の遊具や、学生の持ってきたボールなどで自由に遊ぶ時間を設けました。10月とはいえ、お日様が出ている間は暑いくらいで、汗をかきながら走り回ってはしゃぐ子たちもいました。



その後、チーム対抗で「ケードロ」と「手つなぎおにごっこ」をしました。今回は、こうしたゲームを学生スタッフの1年生数名を中心に企画して臨みました。どうやったら子どもたちみんなが安全に楽しめるか、一生懸命考えました。みんな大喜びで遊びましたが、「チームを交代すればよかった」などの反省点が出ていますので、今後に活かしたいと思います。

また、お昼ごはんのお弁当も、こちらの公園でみんなでいただきました。



### \* 3 青葉体育館会議室にて

公園から徒歩と電車で移動し、青葉体育館の会議室で室内レクリエーションを行いました。

まずはグループに分かれて、「聖徳太子ゲーム」（5人一斉にそれぞれ違う文字を発声し、5人の文字を合わせるとどんな言葉になるか当てるゲーム）や、「絵しりとりリレー」をして盛り上がりました。同じグループ内の子ども同士や学生と協力して、答えを考えたり絵をつなげたりしていく様子は、とても楽しそうでした。



続いて、ハロウィンに関連してカボチャのランタンを、紙コップと色紙を使って作りました。前回の夏キャンプの時に子どもたちから「秋はハロウィンパーティーがしたい！」という声があがっていて、そこからヒントをもらい企画しました。全員が工作を楽しんでくれるかどうか少し不安だったのですが、学生が作り方を教えたり、かわいいシールやマスキングテープをあげたりすることで、予想以上にみんな夢中で取り組んでいました。

少しでしたが自由時間もとることができて、トランプやジェンガをして楽しみました。子どもたち全員にお菓子のプレゼントもあり、喜んでくれていました。



### \* 4 解散

青葉体育館を出発し、仙台駅に戻るとすでに保護者の方々がお迎えに来てくださっていました。毎回のことながら、子どもたちと過ごす一日は本当にあっという間に過ぎてしまいます。少し名残惜しいような、しかし満足げな表情の子どもたちを見て、私たちもほっと一安心し、同時に大変嬉しく思いました。「冬キャンプでまた会おうね」という言葉とともに秋の交流会を締めくくりました。

## ◆秋の交流会を終えて

---

今回、とても嬉しかったことが2つあります。

1つは、上でも述べましたように、これまでの仙台での交流会のうちで参加申し込みが一番多かったことです。春・秋の交流会は、宿泊行事に参加した子どもを対象とし、次の長期休みの宿泊行事までの数か月間、子どもたち同士また子どもと夢のつばさのスタッフたちが会えない間も、心の交流を続けていく活動の一つとして企画していますが、まさに子どもたちが、「またキャンプや交流会に参加したい!」「またみんなに会いたい!」と思ってくることが、私たちにとって何よりの喜びです。学生の考えた企画に積極的に参加したり、新しく入った学生と仲良くなったり、子どもたち同士で楽しんだり。そのような姿をたくさん見ることができた交流会でした。

2つめは、一部の子どもたちから、「夢のつばさのキャンプがもっとこうあってほしい」「自分たちでも企画を作りたい」という話が持ち上がったことです。夢のつばさがみんなにとっての居場所になっていて、さらに参加してくれている子どもたち自身がこの活動がよりよいものになるよう、真剣に考えてくれたことに、私たちはとても驚きました。

さらに、保護者の方々との交流会もとても有意義でした。子どもたちとより深く関わっていくことを目標とする私たちにとって、保護者さまのお考えを聞かせていただくことは、非常に重要な機会であると強く感じました。ご参加くださった保護者のみなさま、ありがとうございました。今後も、ぜひ多くの方にご参加いただければ幸いに思います。

以上、2015年秋の交流会のご報告とさせていただきます。私個人としましては、今回が学生代表になって初めての交流会でした。社会人スタッフの方々との連携が増えたことにより、この活動が多くの方々のご支援とご協力に支えられているということを、改めて実感しております。これからも、夢のつばさプロジェクトをどうぞよろしく願いいたします。

大学生ボランティア代表 お茶の水女子大学2年 野川志織